

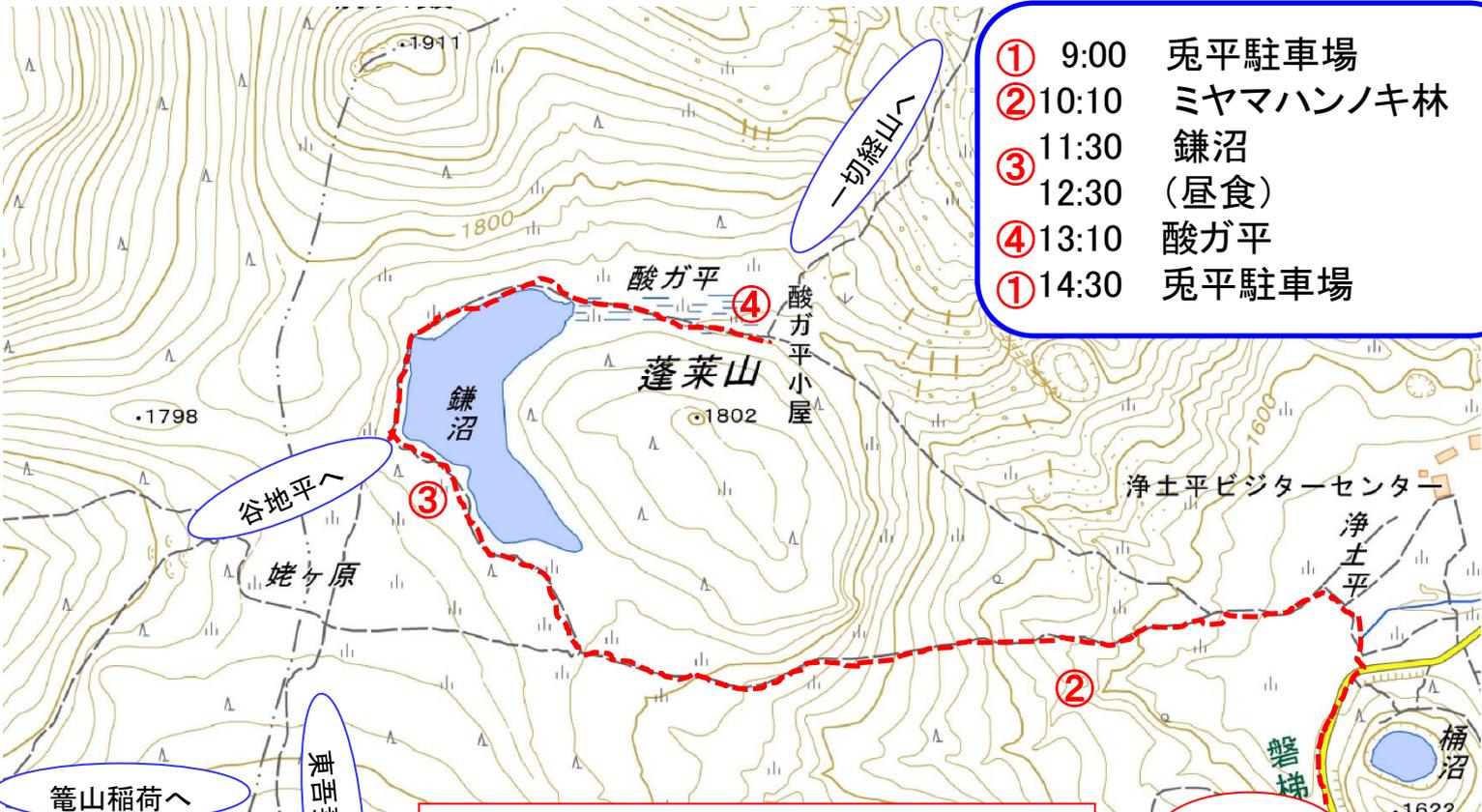
# 第198回 鎌沼高原植物観察会

令和7年7月13日 8:00~15:30



高山の原生林を守る会

# 観察コース



- ① 9:00 兎平駐車場
- ② 10:10 ミヤマハンノキ林
- ③ 11:30 鎌沼  
(昼食)
- ④ 13:10 酸ガ平
- ① 14:30 兎平駐車場

**ゴミは必ず持ち帰りましょう！  
植物の採取は厳禁です！！**

① 兎平P

# 観察のポイント

## 亜高山帯の植物

浄土平から姥ヶ原、鎌沼周辺には環境に応じた様々な植物が生育しています。

### 浄土平

標高約1600mに位置する亜高山帯の平地です。北に一切経山、東は吾妻小富士、南に樋沼、西の蓬萊山と四方囲まれた凹地で、一切経山から噴出した泥土や岩塊に埋められ、火山活動が繰り返されてきました。そのために乾燥地と湿潤地、その中間の適潤地とに区別され、それぞれ異質の植物群落が見られます。

### 姥ヶ原

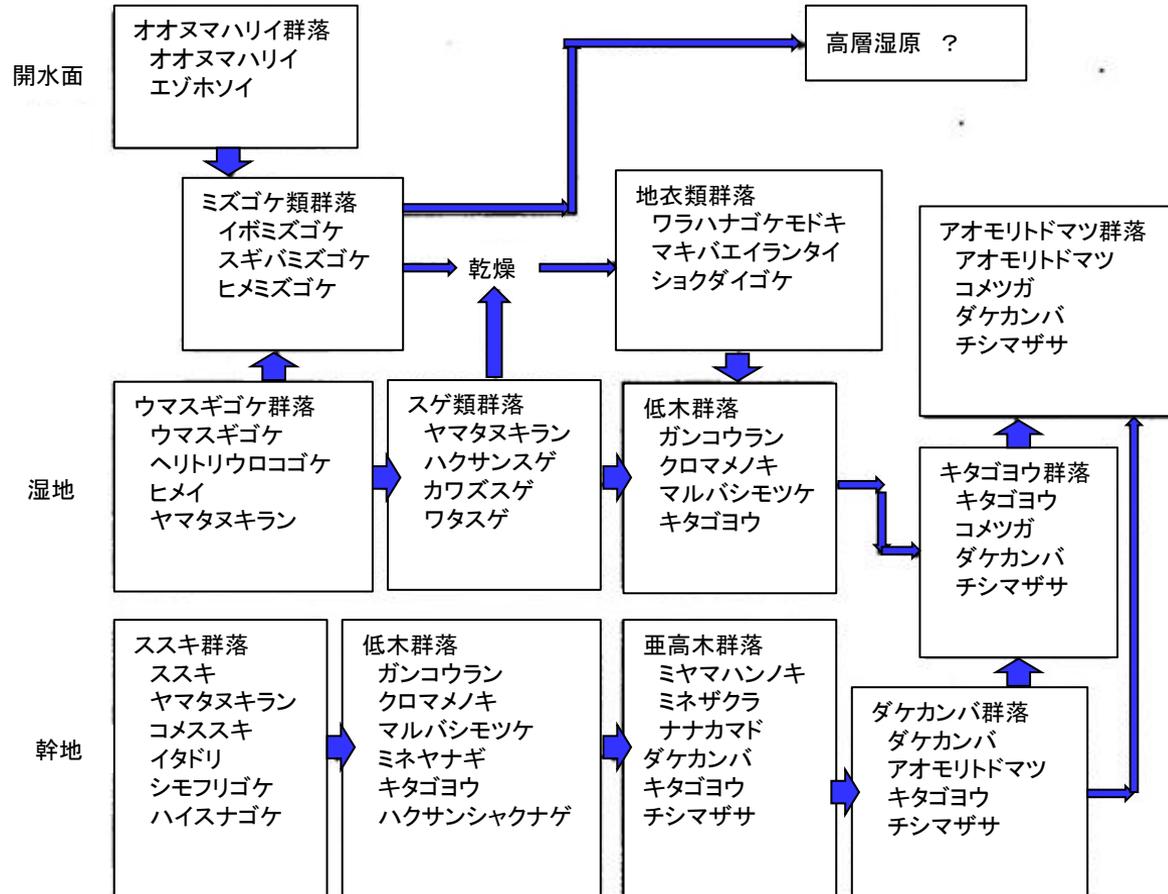
標高約1780m、まばらにあるオオシラビソやミネザクラが東方に傾いたテーブル状樹形をしています。これは、厳しい冬の西風の仕業であり、本来の亜高山帯針葉樹林の成立を阻止しています。

## 観察のための豆知識 肥料木

その木自身がよく茂り、その木の落葉が他の林木の肥料となる木があります。根に放線菌と共生する根粒状の組織を持っていて、空中窒素の固定能力があるのでやせ地でもよく育ちます。肥料木には次のような木があります。

(ミヤマ)ハンノキ, (ケ)ヤマハンノキ, ヤシャブシ, ヒメヤシャブシ, ヤマモモ, ヤナギ類, ニセアカシヤ, イタチハギ, グミ類, ウツギ類, ハギ類

# 浄土平の植物群落の遷移系列



# 浄土平と姥が原、酸カ平の年齢は幾つ？なぜ湿原が多いのか？

一帯の火山噴出物の厚さは500～600mぐらいで、一切経周辺の山はもともと海底に堆積した地層が隆起し標高1400m程度の高原であったところに形成された火山で「**屋上型火山**」と呼ばれている。

**浄土平**：約1万年前に起きた陥没により今の地形が形成されたが、1893年の一切経北西部の大噴火の噴出物が3mを越すほど堆積したため、それまでの植生は消失し、植物群落の新たな形成過程（2次遷移）にある。

**姥が原**：泥流が堆積してできたもので浄土平よりも土壌の風化は進行しており、火山性無機酸の影響が少ない。そのため、鎌沼や酸カ平のpHが4.5で酸性が強いのに対し、姥が原のpHは5.0で植物も比較的生育しやすいため植生は密であり、クロマメノキ-ガンコウラン群落、チングルマ群落、チシマザサ群落、キタゴヨウ群落が発達している。キタゴヨウ群落では階層構造の発達が認められ、一帯では最も植種が多い（23種）。

**酸カ平湿原**：1893年（明治26年）5月19日の一切経大噴火の噴出物でせき止められてできたもので、最も若い。

**鎌沼、桶沼、吾妻小富士、五色沼**：今から約6千年前の噴火口の跡である。

**蓬莱山**：鎌沼を堰きとめている蓬莱山は溶岩流が固まってできた溶岩台地。このほか柵平や兎平、景場平も溶岩台地である。一切経と前大巔の間の平石山も古い溶岩台地。**溶岩台地は透水性が悪い上に、低温や強酸性等により植物が分解しにくく、不透水層が形成されるため湿原が発達しやすい。**



## ミヤマハンノキ *Alnus maximowiczii* (カバノキ科ハンノキ属)

亜高山帯から高山にかけた脊薄な湿った土壤に生える落葉中低木。パイオニア種(遷移初期種)として噴火経歴のある山頂周辺の裸地や風衝地にいち早く侵入しミヤマハンノキ林を形成する。生長が早く、萌芽性に富む。

葉は互生。ダケカンバの葉を一回り小さくしたような形で先端は尖り、彫りの深い側脈が羽状に走る。葉縁には細かい重鋸歯がある。葉裏に腺点があり、発芽間もない時期には粘りがある。

花は雌雄同株。雄花は純正花芽で雌花より先端に着き、雌花は混合花芽で2枚の葉の先に散房状の有柄花序を直立させる。この雄花と雌花の位置関係は同じパイオニア植物のダケカンバ、ヤシャブシと共通している。雌花の雌しべは初め透明感のある白であるが次第に穂の先端から鮮やかな赤に変色する。花には甘い香りがある。

冬芽の鱗片は2枚で黒味を帯びた茶色で粘りがある。幹は柔軟で雪の圧力にも湾曲して適応する。幹肌は滑らかだが皮目がかなり大きく目立つ。

ミヤマハンノキは、根粒菌と共生しているため空中窒素を固定して栄養分とすることができる。葉の窒素含有量が多く、緑色を保持したままで落葉するため土地を肥やす効果が高く「肥料木」としても有名である。根は礫を包み込んで固定する性質が強い。

吾妻連峰の浄土平、安達太良連峰では鬼面山や前が岳、磐梯山では沼の平でまとまったミヤマハンノキ林が形成されている。山域と標高により共存する樹種が異なっており、ダケカンバ(浄土平)、ブナ(鬼面山)、ヤシャブシ(前が岳)、ヒメヤシャブシ、アキグミ(磐梯山)などが山の植生を特徴付けている。



# キタゴヨウマツとヒメコマツの違いは？

松ぼっくりの笠にヒントがある



雌花

果実

雄花



樹皮は若木では平滑  
樹皮色は気候で変化

# 高原の花

メモ



マイヅルソウ



オオバノヨツバムグラ



ハナヒリノキ



ミヤマリンドウ



クロマメノキ



ツマトリソウ